

★日本映画ペンクラブ/2001年度外国映画部門ベストワン

★第56回毎日映画コンクール/外国映画部門ベストワン

★第25回日本アカデミー賞・優秀外国作品賞

★優秀映画鑑賞会/外国映画ベストワン

★文部科学省 特別推薦

★キネマ旬報・スクリーンほか外国映画ベストテン選出多数!

2001年4月7日、岩波ホールで公開された『山の郵便配達』は、9月7日の上映終了まで延べ22週間(154日間)、1日4回上映の席数200がすべて満席となる空前絶後の成績をあげて、アート・シアター系劇場の日本新記録となる興収2億円突破を達成。

映画を超えた社会現象を巻き起こした。

日本を代表する新聞社7社(朝日・毎日・日経・北海道・中日・西日本・南日本)が一面のコラムに取り上げ、口をそろえて絶賛!さらに公開後に刊行されたにもかかわらず、原作が11万部を超えるロングセラーとなり、2007年6月には文庫化され、高校の教科書にも毎年取り上げられるなど、賞賛の輪は大きく広がっていった。さらに中国でも、日本での大ヒットがきっかけとなって、2007年2月に中国映画誕生100年を記念して創設された、中国電影博物館で特別展示されるなど、今もなお、その波紋は絶えることなく続いている。

はじめ、中国で受け入れられなかった、この作品になぜ、これほどまでに多くの観客が、感動し、涙したのか?それは、懐かしい日本の原風景とも思える、緑したたる中国の大自然の中で、日本人から失われようとしているものを、素朴に語りかけてくれたからだ。いつまでも、心に残る温かい人間と人間の絆…いまこそ、この素晴らしい感動をふたたび、スクリーンで堪能してもらいたい。

●この作品には、人間本来のあり方を探る確固とした視線と、人間を信頼し、慈しむ温かさがある。

(品田雄吉さん 朝日新聞 2001年4月17日 映評より)

●すべては失われ行くものへの愛惜と過去への回帰、つまり人間性の原点へ戻ろうとするまなざしなのだ。

(土屋好生さん 読売新聞 2001年6月18日 映評より)

時を越え、幾山河を越えて、手紙に込められた想いは届く…



初めての「旅」が紡ぎ出す、
家族の「絆」の物語。

1980年代初頭、中国湖南省に、現代でも交通手段のない険しい山岳地帯を仕事場とする、年若い二人の郵便配達人がいた。送る人、受け取る人の思いを紡ぐ手紙を、大きなリュックに詰め込んで、何日もかけて配達する。愛犬「次男坊」とともに、山から谷へ、川を横切り、再び山へ…体に重いリュックを食い込ませて、彼は歩きつづける。

そして今日——。退職を目前にした最後の配達に、年若い一人息子を連れて行く。妻と息子へのいたわりの言葉を心に秘めて、仕事を息子に引き継ぐために。二人は折りに触れ、山里に住む人々の一途な心情と素朴さを肌で感じ、少数民族の美しい少女との出逢い(かつて父も母と同じように巡り会い、結婚したのだ…)を通して、しだいに打ち解け、心を通わせていく。

緑濃い、美しい大自然の中で繰り広げられる、この特別な「旅」は、父、母、息子…そして家族の「絆」を取り戻す旅でもあった。



「次男坊、聞いたか?」
「あいつ、初めて父さんって呼んだよ」

山の郵便配達

POSTMEN IN THE MOUNTAINS

フォ・ジェンチイ(霍建起)監督作品 トン・ルウジュン(滕汝駿) リウ・イエ(劉燁) ジャオ・シウリ(趙秀麗) / 原作 ● ボン・ヂエンミン(彭見明)「集英社・刊」
瀟湘電影制片廠・北京電影制片廠・湖南省郵政局 共同製作 1999年作品 / ドルビー-SR / ビスタサイズ / 上映時間:93分 エフ プロモーション / 東宝東和 共同提供



【新型コロナウイルス感染防止へのお願い】

* ご入場時、マスク着用、手指消毒、検温のご協力を、お願いします。 * チケット半券へ、お名前、ご連絡先の記入を、お願いします。